

新潟県

平成2年

公民館月報

10月
第452号

公民館探訪記 むらおこしふる里講座

うどのふる里の実現をめざして



亀倉雄策(1915～)
東京オリンピックポスター

1962年

新潟県美術博物館所蔵

東京オリンピックの思い出が、この一枚のポスターでよみがえる人も多いと思う。エネルギーで、躍動感にあふれ、緊密に構成されたポスターは、オリンピックの理念を高らかに讃えた名作として、当時、世界の人々の感動を集めたものである。過去のオリンピックポスターに例のない写真の導入も新しい試みであった。

亀倉雄策は吉田町出身。七五歳の現在も第一線で活躍する国際的なグラフィックデザイナーである。

第31回関フ口公民館研究集会

生涯学習を進めるための

公民館の役割を追究

長野色鮮明の研究集会

去る9月11・12日に
わたり、長野県上山田
町文化会館を主会場
に、第31回関東甲信越
静公民館研究集会が開
催された。

一都十県から、千三百人余が
参集し熱心な研究協議を展開し
た。本県からは46名と例年にな
い多数の参加であった。

なお、来年度は本県が主管県
であることから、閉会式におい
て、木下清一会長
により、湯沢町を
会場に九月五・六
日に開催すべく取
り組むので、多数
の参加を請うとあ
いさつがなされ、
万雷の拍手を浴び
ていた。

研究主題は三年連続(静岡・
茨城集会以て)「生涯学習を
進めるための公民館の役割」を
深めるものであった。

第一日は21分科会に分かれて
の研究協議がなされたが、この
うちの18部会は公運審(都市)
部会で、事例発表には星野徳三
郎氏(長岡市中央公民館運審委
員長)が、司会は佐藤貞正氏(新
潟市坂井輪地区公民館運審委
員)が、助言には古川弘氏(横
浜国立大教授)があたり、真し
な研究協議がなされた。

第二日はシンポジウムで、
次期主管県公運を代表してあいさつ
する木下会長

五人の登壇者により「生涯学習
と公民館」との関係について論
求していた。

総じての印象は、学習主体者
としての住民に目を向け、地域
の生活を大切にしようとする公
民館(それが原点であり当然の
ことなのだが)の構え方がどこ



関フ口公研集会印象記

試行錯誤からの脱皮

後藤 脩 平

もはや生涯学習という言葉は
一般に定着し、その本質にむけ
て動き出した。それを實際生き
た企画で具体的に地域に生かす
公民館からの行動しかない。

にも取り上げられ、一本の筋が
通った研究会だった。
来年は、当県公運が主管を受
けることになっているのだが、
どのような公研集会とすべきか
について、およその方向が見え
てきたように思われる。

第31回関東甲信越静公民館研
究集会(大要は本紙別掲省略)
に参加した。第一の印象は、参
加者の多かったことだ。それは
本大会のテーマである「生涯学
習を進めるための公民館の役
割」と問題を明確にしようとし
る意気込みに本大会への期待が
大きかった結果であろう。

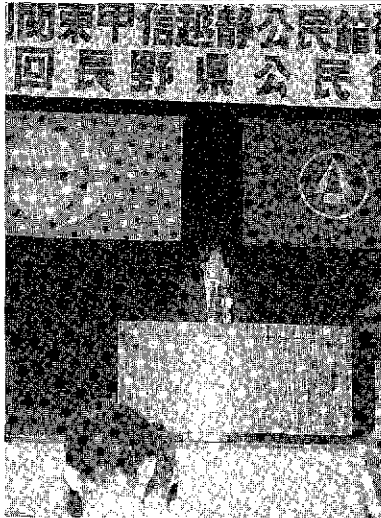
シンポジウムで一人のパネ
ラーが、今こそ高らかに公民館
の歌をと提唱していたが、何故
か空々しく公民館四十余年の歴
史の中で既に寺中構想は風化し
たと云われないが、公民館の果
す役割も変化してきているので
はないか。

21分科会の中、第8分科会「地
域づくりと公民館」に参加した
が予想通り身近な問題だったせ
いか参加者二三〇名、大ホール
を使用するほどの状況であつた。
三時間にわたる事例発表と
活発な意見交換があつたが試行
錯誤からの脱皮を試みようとし

次回第32回大会が本県湯沢町
に開催が予定されている。さら
に社会の学習活動が進むであろ
う。今、直接的にサポートする
課題は何か、解決のために更に
前進することを期待する。
(新潟市東地区公民館長)



小嶋新会長の開会あいさつ



次期主管県公運を代表してあいさつ
する木下会長

関プロ公研集会印象記

公運審委(都市)

部会に参加して

大平 剛

公民館運審委のあり方について他市ではどのように取り組んでいるか、公民館職員の立場でそれを見聞するため参加した。提案発表に対する質疑応答、各市の事例発表と意見交換を聞きながら、予想していたとはい

え、運審委の活動とりわけ、個々の活動事業の企画から運営に至るまで参加している実態などを知り、委員一人ひとりのかかわり方が能動的であることが印象的であった。それぞれの市(館)において

(長岡市中央公民館)

は、これまでの経緯や事情が異なるため結論づけるようなことはできないが、公民館が掲げた目標に向かうための体制づくりとその運用の仕方に差があることを強く感じた。

当日、運審委としての総意が思ったほどうまく実現でき得ないことを擲論して、「議して実行す」という名言が飛び出した。今回関プロに参加したことが「実行す」に終わらないように心したい。

辛口

公民館活動で本館・分館の連携を強めていくことは極めて重要なことであるが、忘れてならないことは「地域に根ざした活動」ということであろう。

ほかに各種団体や地区委員の中から運営審議委員がだされている。これは一見、形は整っているように見えるが内容が形骸化し本来的な機能を発揮していない。分館は本館の方に

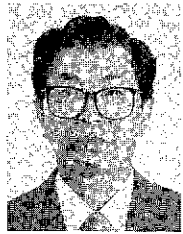
ながら付加価値もつかない。こうした現状を厳しく認識する必要がある。先般、ある地区で分館活動に厳しい反省を加えた。そして地区行政の円滑なる運営と明

かに分館長がおり、地区行政と完全に一体化した中で活動が進められた。先日、恒例の地区運動会があった。応援団もいっしょになく多く役員は生き生きとして活動し、会場で活気がみなぎった。終始きままりよく、朗らかに老人会の隣りは一際花を添えた。

新しい時代に新しい時代に対応

平原 周司

特別分館では、子ども会、青年会、老人会



だけ顔を向け、大切な足もとである地域を忘れてはならない。だから魅力に欠け、何かやろうとしても人間が集まらない、盛り上がりがない、燃えない。当然のこと

朗なる地域社会づくりを目的に、地区の委員会に三つの部会制を設置し、行政組織の中に位置づけた。その一つに「公民館分館部」がある。部員は六名では

分館が行政と一体となっており、地区住民の参加意欲をそそり所屬感・連帯感を高めたものと思う。

(大潟町 教育長)

一、本大会の性格と意義

近年、住民の生涯にわたっての学習意欲の高まりを見せる中で、本大会も第29回の静岡大会から「生涯学習」をメインテーマに据え、取り組んできている。この時にあたり、本大会はこれまで積み重ねてきた実績を振り返り、地域住民のもつさまざまな学習課題を明らかにし、その取り組みについて研究を深めるとともに、それに伴って必要な条件整備の方向等についての研修を深めることにねらいをおく。

二、公民館をめぐる今日状況

本年、7月1日「生涯学習の新興のための施策の推進体制整備に関する法律」が施行されたが、これは住民の生涯にわたっての学習意欲が年々高まる中で、生涯学習体系の整備に本格的に着手しようというものである。

関東甲信越静公民館研究集会

基調提案の骨子

三、本大会への提案

1、なぜ公民館が存在するのか。なぜ公民館が生涯学習の中核的機関なのか、はつきりさせよう。

2、住民が学習の主体者としての能力を形成していく必要がある。そのため、住民の自発的な学習が円滑に効果的に行なわれるための条件整備(設備の整備、指導・助言者の用意など)を進めよう。

3、生活を見つめ、生活を豊かにするための公民館の役割を再認識しよう。

4、分館は地方自治の最小の単位として、活動を盛り上げる必要がある。

5、住民の自主的・創造的な活動を支えていくための条件整備をはかる。

よって分館の強化、充実をどうはかっていくか。

10月17日は「貯蓄の日」です

(新潟県貯蓄推進委員会)

柏崎市北条地区公民館では、いま、「むらおこしふるさと講座」と銘うった学習活動を実施している。住民の公民館活動の活発化とともに、住民主体の学習活動により、この地域の活性化のために、熱い期待がよせられている。

この講座は、平成元年度から平成3年度までの3年計画のもので、公民館の講座としては他にあまり例のない長期の学習計画であるが、「うど」の人工栽培の技術を習得して、北条地域の特産品づくりをしようというきわめてユニークな公民館活動を探訪した。

はじめに

北条地区は柏崎市の中心部から南へ10軒ほどのところに位置し、JR信越線の駅はあるものの路線バスが通っていないことに不便をかこっている農山村地帯である。

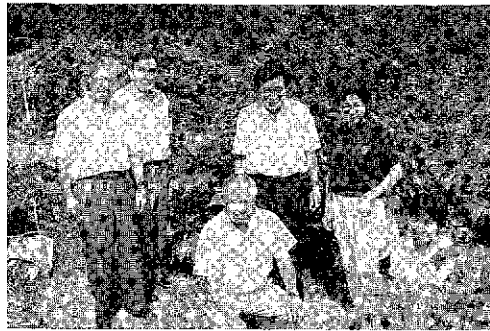
人工五千二百人(千三百戸)その中心の大広田部落に、公民館とコミュニティセンターの二枚の看板が掛けられた鉄筋二階建の建物が建っていた。中央公民館の品田尚道氏の案内で訪れた公民館には、いずれも初対面の公民館長神林伝氏、学級運営委員長村山常栄氏、北条コミュニティ協議会長桑原孝栄氏の三役と公民館指導員の戸田洋子氏の四人が待っていてくれた。

あいさつもそこそこに、館長の神林氏は、「北条の過疎をどうしたら防げるかが館長就任以来の課題だった」とのっけから話し始めた。

そして、過疎の問題は、単に人口が減るといっただけでなく、田畑が荒れるし、高齢者がさしたる仕事もできずに取り残される、というこの三つの課題が同時に覆いかぶさってくる。だから、地域おこしのためには、この三つの問題を同時に解決しなければならぬという。

「永い歴史の中で、祖先が営々

として築いてきた古里北条をより魅力あるものにして次代へ引き継ぎたい。そのために、古里の自然を生かし、農業を生かした方法はないものかということから離れなかつた」とおっしゃる。そのことから、山菜の活用を考えて、これまでに地域内の山野に自生している山百合・センニンソウ・オーレン・



わらび・ぜんまいなどたくさんのもが候補にあがり消えていき、その中から「うど」が取り上げられた経緯は、桑原孝栄氏のうどの採種の成功にあったという。

桑原氏はかねてから、野生のうどの株分け栽培より播種栽培のほうが能率的であるとして採種方法の研究と取り組んできた

(表) 趣意書 北条地区の皆さんへ

独活のふる里の 実現をめざして

北条公民館

1、今こそ地域の見直しを、私たちが古里北条は、昭和二十二年ころには人口九千人余りを数えましたが、以来昭和三十年代より社会情勢の変化がもたらした都市部への人口流失に伴う農村部の人口減少傾向は、過疎化への道を進んできました。特に昭和三十三年には、「程平部落」の全戸離村。また「鷹之巣部落」が閉村の止むなきに至ったのは、つい一カ月前のことです。現在の人口は五千二百人と約半数近くに減少しています。そして、その要因については

- ① 地元にかしたる企業のない産業の停滞。
- ② 全国に類をみない、町と名のつく「北条」にバスの通らない現象。
- ③ 生活環境整備の立ち遅れ等にさいなまれて、過疎化に拍車がかけられています。

今、ふる里がかつて経験したことのない動揺の中に立たされている姿を見るとき、永い歴史の中で祖先が営々として作り上げたふる里を、より魅力ある北条として次代へ引き継ぐことが我々の責務ではないでしょうか。流れ行く時間に、地域の活性化という区切りをつけ、新しい発想を練りながら、この町の荒廃を阻止する運動に一人でも多くの参加者を期待したいものであります。(以下2、「地域おこしに独活の人口栽培を」、3、「ふるさと講座開講案内」については略)

が、鳥取県の篤農家の協力により成功していたことによるものであった。そして、「実生によるうどの栽培」こそ、他のどこでも取り組んでいない栽培方法として、「北条ならではの」独自の地域おこしの有力な手段として、公民館長の「ふるさと講座」への取り組みに全面的な協力をすることから始められたものである。

周到な用意によって

うどの播種栽培に関する技術については、参考にする文献が

得られなかったという。この道の指導者も得にくいという悪条件の中で、館長自ら暗中模索の中で先導的な研究に取り組みつつ、「ふるさと講座」開設への準備をすすめたという。まず、人工栽培のための方法を技術指導するテキストづくりから始めなければならなかった。このことについて神林館長は「地域の活性化を考えるのは、大学の先生でもなければ、県知事でも市長でもない。主体はあくまでもここに住む我々自身である。そして、他人の模倣をす

(表2) 平成2年度の年間学習計画

回	月/日	学習主題	学習内容
1	3/27	・お久しぶりです。い いうど作ろうNo.1	・開講式 ・うど通年栽培の全体学習
2	4/25	・旬の出会いを大切に	・金庫山で春を食べる(うどや山菜で)
3	4/25	・いいうど作ろうNo.2	・通年栽培のための講習会
4	5/中	・これぞ北条の極めつ けうど料理	・生のうどを使って料理の探究と実習
5	〃	・北条の春(旬の味) 届けます	・山菜料理で施設訪問(ボランティア)
6	5/下	・みんなで考える地域 づくりNo.1	・地域づくりの先進地・安塚町を訪ね る。
7	8/下	・いいうど作ろうNo.3	・自家採種と通年栽培以外の学習会
8	10/20	・コミュニティ祭への 参加のための準備	・まつりにうど料理出品のための準備
9	10/21	・まつり、食べて、 見て/ 味は?	・うど料理を試食してもらい、アン ケートする。
10	10/下	・みんなで考える地域 づくりNo.2	・高柳(旧町名)話を聞いて、みん な語ろう。
11	11/中	・いいうどできたぞ! きよならパーティ	・1年間のまとめ ・アイデア うどパーティ

公民館探訪記 むらおこし

うどのふるりの

柏崎市北条

るのでなく、北条方式という独自のものを生み出すことの重要性が分かった。さらには、金がかからず、気楽に、誰もが参加できるものでなければならぬ」とし、その方向を明確に打ち出し、教材を自作で二カ月の苦心の末作り上げたという。

啓発は趣意書で

北条公民館では、地区住民に對して、地区の生活課題をはつきりと告げ、課題解決の手段として「独自の栽培」に取り組みうと、趣意書で意識啓発をはかっている。

講座開設に関する情報を提供

描きたいな、

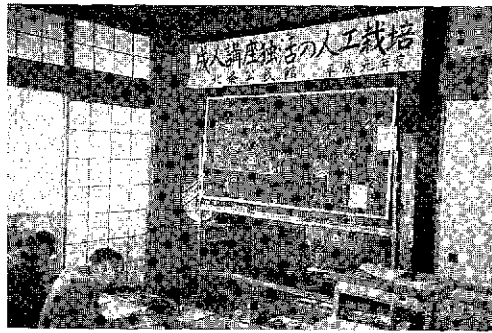
明日への設計図

(新潟県貯蓄推進委員会)

するに当たっても、単なる開設情報にとどまらないで、趣意書によって住民をふるい興している点、この地域おこしを成功させたものようである。

(趣意書の内容は表1参照)

この趣意書に対する反響は予想外に大きかったのには驚いたと館長はいう。従来の学級・講座の場合三十人以上を教えるこ



かぎりであった。

○従来の公民館活動の参加に無縁だった人たちの参加が64%と多かったことも特筆する点であった。

学習プログラムの表2を参照されたい。うどを量産体勢に持ち込むまでに3年程度必要である。第1年次は、うどの栽培技術を中心とした学習として、13回の講座を実施したが、今年度は第2年次として11回の講座を実施している。

この講座の特色は、学習内容がきわめて実践的なものであり、学習結果をただちに各自の畑で作業実習することにある。そして、その成果を相互に確認できることにある。かつ、そのことが、生産に直結しているため、地域ぐるみの助け合い、教えあいのできる学習活動であることである。むろん、講座参加者は途中で脱落する者皆無で今日まで続いている。

次に、学級運営委員長が、公民館長の意図を最も理解している人である(講座開設についての相談相手であるから当然のことである)から、11人の学級運営委員をリードして、公民館の手薄な職員体制を補完していることも特色と言えるであろう。

また、自主的な学級運営に取り組んでいることも、地域住民の自治意識・自治能力の向上にも大きな力を発揮していることが特色といえよう。

おわりに

北条公民館では、この平成元年度の学習プログラムを、住民のアンケートなどにより手直しをして、平成2年度のプログラムによって、より一層充実した講座に取り組んでいる。来年の学習内容がどのようになるのか今から期待される場所である。また、そのことに関して、すでに一つの課題として明確に捉えていることを知った。

それは、つまり、うどの生産が高まり(学習の成果が高まり)量産態勢が整ったあかつきには、「うどを教材にした」ふるさと講座は公民館から離れ、生産活動として捉えることとし、すでに、学級運営委員の手によって、その準備も進めつつあるのだという。

「地域づくり」の主役は住民であって、公民館の仕事ではない。動機づけ、意欲づけが役割ということを十分に心得た館長さんの言動に敬意を表するとともに、うどによるふるりづくりが成功することを祈念しつつ、帰途についた。(上村記)

百館百様

現代版井戸端会議ふう

女性セミナー

〔女性をとりまく学習環境〕

一九七五年「国際婦人年」とそれに続く「国連婦人の10年」と国際的な規模で、男女平等的な規模で、男女平等・婦人の地位向上の活動が推進された。

日本においても「女子差別撤廃条約」を批准し、「二〇〇〇年に向けての国内行動計画」を策定している。(一九八七年)。

これを受け、新潟市も一九八八年、女性行動計画を策定し、男女が共同して参加する社会の形成と女性の自立を目指している。

一方、こうしたなかで、女性の学習要求が多様化、高度化、これに対応した学習機会が求められている。とはいえ、市の実施した生涯教育に関する意識調査(一九八三年)によると、女性問題への認識が必ずしも高いと見受けられない。

そこで、女性の自立や社会参加を促進するため、性別役割分業の意識、女性を取り込んでしまいうる家族制度・家族問題や生活習慣に残っている性差別について学習する場が必要となつてい

る。女性セミナーの開設状況

女性セミナーは国庫補助事業の女性問題を学習する講座で、四年目を迎える。女性の立場は、主婦、就労婦人、未婚・既婚、母親などさまざまであるが、ここでは主婦に焦点をあて、主婦の置かれている状況をさぐり、参加者自身が自己・家族・生活を問い直す機会になることをねらっている。

一年目は三十数名の申込があり、参加の動機は参加者自身に内在化していた。子育てをしな

ら、あるいは子育てにひと段落した人が見通しのつかない将来に不安やいらだちを感じ、何かをつかむためだった。だから話し合いも本音でぶつかりあう場もあって、盛り上がった。ところが二年目になると、少し様子が変わった。参加者自身の模索状態からの参加ではなく、むしろ女性問題とは何だろうという第三者的な立場の参加だった。

新潟市鳥屋野公民館

それまでは女性ということと差別された体験をもち、自覚しているものと、それを前提に学習プログラムを企ててきた。

そこで三年目は差別を差別として意識できないほど問題が見えにくくなるなかで、逆に性差・性別役割は本当にあるのだからか、についてマスコミ・生物学・心理学・芸術・母性意識の面から考えようと試みた。

事前レポートでは、「女であること」をテーマに書いてもらったが、「女であることなんて考えたことがない」「あたりまえ」「いままさら」といった反応や戸惑があった。が、学習後には、妻・母親の役割に追われがちであるが女という性を改めて考えるきっかけになったことがうかがえた。

①学習記録集の作成

参加者の主体制を確立し、参加者自身の学習とするために、受講前と後の2回レポートの提出を求めている。

書く作業は今の時代、敬遠されるが、2つのレポートを比較すると、書くことよって気持ちや問題が整理でき、内面的変化を自覚できたり、各学習会の様子を発言内容も含めて残すことで、参加者の学習過程での考えの変化や矛盾がみとれるようできるだけ詳しく残している。

②講師の選定

研究者に状況分析や根本的な問題について理論的な裏づけの解説をしてもらい、具体的な問題への対応については実践者の体験を聞くなど配慮している。

③学習方法

講義よりも話し合いを中心に取り入れている。ワイワイガヤガヤ言い合うなかで、自己表現の能力や社会性を体得したり、仲間づくりができ、女性のネットワークづくりに結びついている。

学習会はよく「生きている」と言われるように、学習プログラムだけの良悪で成立するものではなく、場の雰囲気も重要な要素である。

参加者一人ひとりの意欲と目

(以下八面の五段に続く)

学習プログラム

〈第1年次=昭和62年度〉
ねらい・主婦の置かれている状況をさぐる。
・主婦とはいったいどういう立場なのかを考える。

時期 昭和62年5月22日～12月5日
主題 足もとを見つめよう
各回のテーマ

- 大人の女が学ぶということ
- つくられた主婦像
- 「男は仕事」「女は家庭」～わが家の場合～
- 夫の世話は愛情か家事か
- 家事労働の担い手はだれ
- 主婦が経済的に自立するには
- 台所から政治が見えた
- 私が地域活動とおして得たもの
- 新潟市はいま
- 新潟市はいま～女性行動計画の提言より～

講師及びパネラー
専門家、市民運動家、実践者など経験豊かな人

〈第2年次=昭和63年度〉
ねらい・主婦の立場から社会参加を考える
時期 昭和63年5月25日～12月7日
主題 足元から社会参加へ
各回のテーマ

- 動き始めた新潟の女性たち～女性行動計画～
- 家事と主婦
- 女性の手の届く政治にするために
- くらしと社会活動
- 主婦という肩書き
- 大人の女が学ぶということ
- 国語辞典に描かれた女性像

〈第3年次=平成元年度〉
ねらい・性、性差をさまざまな角度から考える
時期 平成元年5月6日～9月13日(11回)
各回のテーマ

- 女性雑誌に描かれた女性
- 生物学から見た男・女の違い～性の分化課程～
- 心理学から見た性のとらえ方
- 日本人の中の性意識
- 芸術の中の性

企画・運営上の留意点

この学習会を企画・運営するうえで次のことに留意している。

百館百様

サークル交流

土に思いを託して

サークル陶炎

白根中央公民館が陶芸講座を開講されたのは、昭和五十九年四月。六十二年四月には、自主グループサークル陶炎が誕生した。会員は現在二十三名で三グループに分かれて活動している。指導して下さるのは、南蒲、田上町土生田焼窯元の新進気鋭の陶芸作家石田一平先生である。年間製作活動の山場は、文化祭出品作品の製作である。しかし、平成二年は、それに加え新しい



試みがなされた。市制三十周年記念行事に参加して、チャリティ作品展示即売である。計画を練り何回か会合を持ち、実施した。果して売れるだろうかと

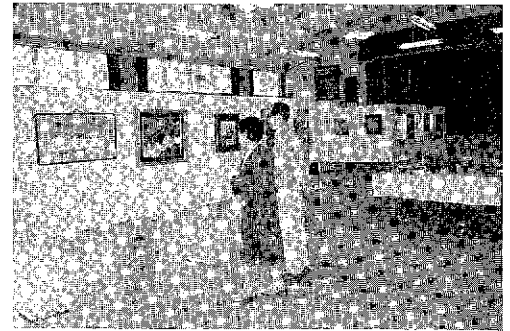
いう心配をよそに、午前中に完売し、老人福祉センターへポット五ヶを寄贈することが出来た。この試みを通して、より良い作品を作りたいという意欲が高まり、現在は文化祭作品に熱中している。終わりに、市当局の窯場の設置、陶芸教室の拡張、それらに関わる公民館の方々の御配慮に厚く御礼申上げる。

(白根市中央公民館 利用サークル 細貝溪子記)

和紙のぬくもり

和紙画グループ

このグループは、和紙画の第一人者であられる子田真一路先生にご指導いただいて、月二回制作に励んでおります。九時から十二時迄、先生の作品をお手本にして実習しています。最初は、和紙を千切つて糊ではるだけと思つて始めましたが、先生の作品を拝見し、指導を受けるにつれ、その技法の多様さに驚



かされました。和紙の持つ特質を改めて思い知りました。和紙にも色んな紙質があり、美しく微妙な色合いに染められた紙は、見るだけで幸福な気分になります。また和紙画とまではいかないものの、四季折々の花や風景等を作品にして楽しんでいきます。十一月の市展、三月の公民館の作品展と二度発表の機会もあり、制作にも熱が入ります。先生は大変な博識家で、とてもユーモアがおります。制作をしながら先生のお話を伺うのも楽しみの一つです。皆、教室日を楽しみに通つてきております。

(糸魚川市中央公民館 利用グループ 柳瀬明子記)

柏崎市北条地区公民館 指導員 戸田洋子さん(40歳)

終始にこやかに、しかも、てきぱきと応待する姿は初対面とは思えない戸田さん。

民間のOLから北条公民館の指導員になつて四年目の由。肩書きは指導員ながら、並みの職員では遠く及ばない力量をお持ちで、神館館長さんの良き片腕として活躍している人である。ずい分張り切ってます



素顔 拝見

村上市上海府地区公民館 長谷部俊一氏(25歳)

社会教育の仕事に就いて三年目。今、仕事に一番脂がのつてきている時期である。職員は彼一人、上海府地区は彼の腕にかかっているのである。

公民館の第一印象は？

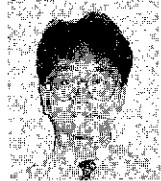
「ひとつひとつの事業の企画、立案から実施まで自分の考えを生かせることが、他の部局になり魅力を感じる。」

主な事業は？

「青少年対象の活動から、スポーツ教室やら、文化祭やら……」

ね！「おかげ様で。毎日やりがいを感じています。でも、はじめのころは、年上の人が多く、地域の人々の心をつかむのに苦労したんです。その都度、館長さんのアドバイスで……」

「いまの仕事は？」
「生きがい教室です。層は高齢者対象の学級づくり。夜は婦人教室。心のふれあいが深くなり、運営委員の方たちとの呼吸がよい、楽しいです。……」と。
家庭では両親健在で安心して公民館の仕事ができるとおっしゃる。一層のご健闘を。(上記)



もう何から何までやっていきます。(地区館の職員はオールラウンドプレーヤーにならなければならぬのだ。)各種の研修会にも積極的に参加し、意欲的に公民館活動に取り組む姿勢には目を見張る。

今は、秋のメイン行事。地区文化祭に向けて日夜ガンバッテいる長谷部くん、これからの公民館の期待のホープである。

(村上市中央公民館 大滝慈光記)



知ることから始めよう

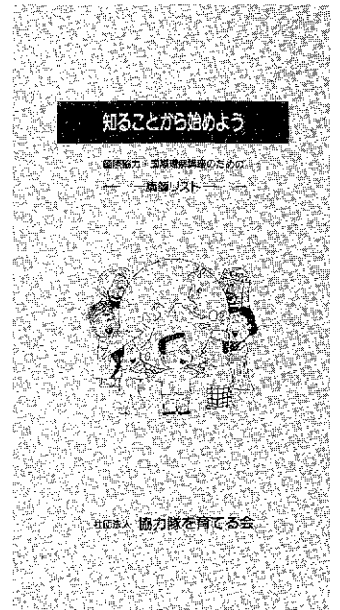
講師リスト紹介

社団法人「協力隊を育てる会(会長中根千枝)」では、このほど「国際協力・国際理解講座のための講師リスト」を刊行した。

この講師リストは、一人一頁の紹介で、氏名、生年月日、出身地、現住所、現在の役職、略歴、専門(研究)分野、主な公演分野などが詳細に記載されている。六二頁、変形判である。

その送付状によると

「国際協力・国際理解講座のための講師リスト」を作成いたしました。掲載の講師陣は、国際協力、国際理解、開発教育、地域の国際化などについて総合的なお話をうかがえる方々で、特に協力隊活動をいつも応援してくださる先生方です。当会でご要望に応じてこれら講師の紹介を行います。とあり、「国際協



力講座講師紹介申込書」により申し込むと紹介あつせんしてくれるものである。

関心のある向きは、左記へ問い合わせられたい。

推薦図書



ロマンの十日町地方を語る名著
妻有郷の歴史散歩
つまりごう
佐野良吉 著
国書刊行会発行

草創期の公民館の発展に努力された佐野良吉氏が、十日町地方の歴史をわかりやすく書いた「妻有郷の歴史散歩」を出版された。氏は、すでに「随想妻有郷」を出版されており、本書はその姉妹篇として、その後の踏査と研究と思索の成果をまとめたものである。

内容は、歴史点描・きもの十日町・NHKラジオ「朝の随想」よりの、三部で構成され

〒160 新宿区霞が丘十五
日本青年館内

県民コンサート案内

聖籠町文化会館で

来る10月28日(日)、北蒲原郡聖籠町教育委員会では、県教育委員会と共催で「県民コンサート」を開催する。



これは、県民の音楽文化への参加活動を促進するために、発表と鑑賞の機会を提供し音楽文化水準の向上を図ることを狙って実施するもの。

入場無料で、町民以外でも入場できるので広くおすすめる。なお、入場整理券が必要なので、希望者は左記へ申しこまれたい。

電話〇二五四二二七二二二

聖籠町文化会館 あて

ており、歴史・文化財・織物・民族・宗教と多彩であり豊富である。郷土を愛する佐野氏の、妻有郷に寄せるロマンの真情が伝わり胸を打つ。

郷土を愛する人々に広くおすすめる好著である。

平成2年5月31日発行、B6判、290頁、定価一、八〇〇円、最寄りの書店で求められたい。

(六面より続く)
主性によって学習会の雰囲気は醸成されるが、何とか都合をつけて参加したくなるような楽しい、しかも飾らない自分を出せる学習会を目指している。

(前新潟市鳥屋野地区公民館 社会教育主事 伊田千代子記)

あとながき

◆「灯火親しむの候」となりました。読書とともに書きものにも適した気節です。

『公民館歳時記』の原稿をお寄せください。公民館にまつわる季節のイベントの感想やら、その時々随想など気楽なもので結構です。

七百字程度にお書きください。編集部へ一報くだされば、専用原稿用紙をお送りします。

(上村記)

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市川端町2-9・県林業会館内】
【電話・新潟(025)224-6073】

発行人 会長 木下清一

編集人 事務局長 上村捨二郎
【定価1部120円 年共1,440円】